

日常生活圏域での連携強化を 施設とCSWで意見交換会(豊中市)

豊中市社会福祉施設連絡会(以下、施設連)

は、市内を7ブロックにわけた日常生活圏域での施設・社協CSW等の連携強化を今年度の目標に掲げています。

そこで10月23日、加入施設と社協CSWによる意見交換会を開催しました。

はじめに、豊中市協会の佐藤千佳さんから、地域福祉ネットワーク会議(※)であ

がってきた各圏域の課題や施設との連携事例を紹介。次に、府社協社会貢献支援員の山内充郎さんから、オール大阪の社会福祉法人による地域貢献事業を目指す「大阪しあわせネットワーク」の説明がありました。

そのあと各圏域に分かれ、地

域課題の共有と、それぞれの施設における地域貢献の取り組みについて意見交換しました。

「取り組みや課題」

●施設内でカフェ等を開き地域にスペースを開放している。

●施設連では台風21号発災時、地域の被災者向けに施設開放などを行う施設を一覧にまとめた「被災者応援リスト」を作成し、事務局を担う豊中市社協のHPで公表した。

●地域住民と防災訓練を行い、災害時に施設が地域のためにできることを知ってもらう。施設が困った時にはお互いが助け合える関係を構築できれば良い。

●地域に根付いた施設として地域課題を把握し、住民とともに活動していくため、調整役であるCSWとの連携強化が必要。

施設連では、今後も地域の福祉ニーズに即した、よりきめ細やかな地域貢献活動を展開していきます。



生活圏域に分かれた意見交換会
※地域福祉ネットワーク会議：豊中市内で日常生活圏域毎に設置された、住民参加型のネットワーク会議

集まれ！地域の担い手 住民が主役のまちに

(枚方市・香陽校区)

枚方市の香陽校区福祉委員会は、地域住民や民生委員・児童委員、自治会などの地域活動者と日頃から連携しやすい顔の見える関係を築いています。

さらに、地域の関係団体で構成されたコミュニティ協議会を中心に社協や周辺の介護事業所などと連携し、香陽校区を対象とした第二層協議体を結成しました。福祉委員会がコーディネーター、地域包括支援センターが事務局を担っています。

健康づくり、自主運営へ発展

昨年度は、地域課題の実状を知るため、60歳以上の住民を対象に自治会を通してアンケートを実施。日常の困りごとや、行事等への参加状況について調査しました。福祉委員会の行事に参加の回答が多い一方で、身近な場所で体力・健康づくりが行える場を求める意見が多くありました。

そこで協議体は、自治会集会所を会場に65歳以上の住民を対象とした期間限定の「元気づく

り教室」を開催しました。理学療法士の指導による口コミ体操の後、参加者で和気あいあいと話しながら交流を深めました。

回数を重ねることで参加者に体力増加や体幹強化が見られ、介護予防としての効果が発揮されました。また、参加動機に「運動がしたかったけれど一人では続けにくい」との意見が多くあり、仲間と励まし合いながら健康づくりが行える身近な場の重要性も確認できました。

「元気づくり教室」終了後も参加者から「今後も続けたい」という声があがり、参加者による自主運営で教室が継続されています。

おたすけメイト 元気づくりメイトの立ちあげ

同アンケートでは、「趣味やスキルをいかしたい方」「地域の担い手に興味のある方」を募ったところ46人から担い手希望の回答がありました。昨年12月には担い手希望者を対象とした交流会を実施。ちょっとした助け合い活動が書かれたカードを使った「近隣助け合いゲーム」を行い、些細なことでも地域の手助けになることを共有しまし

た。

交流会終了後、地域で支援を必要としている方へのお手伝いを希望する人は「おたすけメイト」、趣味や経験をいかした活動の場を希望する人は「元気づくりメイト」に登録。現在、登録者による地域の支え合い活動を企画中です。お手伝いを必要とする住民の依頼を、地域の支え合い活動コーディネーターがおたすけメイトに繋ぐ仕組みです。(支援の流れ 左図)

福祉委員会会長の貞利富士美さんは、「高齢者がいきいきと安心して暮らすために必要な仕組みづくりを協議体全体でサポートしていきたい」と意気込みを語りました。

